

グリーントピックス

北海道立林業試験場

No.35

自動撮影カメラがとらえた森の動物たち

森は、さまざまな動物たちの生息場所になっています。しかし、足跡や糞などの痕跡はあっても、私たちがその姿を直接目にする機会は多くはありません。近年、安価な自動撮影カメラが発売され、森林などに生息する動物の調査・研究に活用が広がっています。

野生動物用の自動撮影カメラの多くは、動物の熱に反応して撮影されるもので、エゾリス程度の大きさの動物なら十分に反応します。デジタルカメラはバッテリーの持続時間が短いため、フィルムを使うものが主流です。林業試験場の光珠内実験林では、3台のカメラを2004年秋に設置してみたところ、これまでにヒグマ、エゾシカ、キタキツネ、エゾタヌキ、エゾクロテン、エゾリス、エゾユキウサギ、アライグマ、コウモリ(種は不明)が撮影されました。

生物多様性の保全は、今後の森林管理の大きな課題の一つですが、そのためには、まずどのような生物がそこにすんでいるかを知る必要があります。自動撮影カメラはそのための重要な道具になると考えられ、現在、その効果的な活用方法について検討しています。

(鳥獣科)



ヒグマ

近年、実験林でヒグマが目撃されたことはありませんが、平日の日中に、亜成獣(2~3歳)と思われるヒグマが林内を歩いているのが撮影されました。



アライグマ

実験林内にも、近年問題となっている外来種のアライグマが生息していることがわかりました。



←エゾリス

エゾリスはしばしば撮影されます。カメラを低い位置に下向きに設置すれば、さらに小さなネズミ類も撮影できます。



エゾクロテン

ほ乳類は夜行性のものが多く、しばしば夜に撮影されます。エゾクロテンが撮影されたのはこの1枚のみで、生息数の少ない動物をとらえるには、多くのカメラが必要かもしれません。